

# COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

14 October 2009

## IN THE HEADLINES



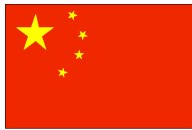
シンガポール

第3四半期の実質GDPは、前四半期比、季節変動及び年度調整後ベースで14.9%増加した(先行予測)。なお、第1四半期に12.1%減少した後、第2四半期には22%増加している。前年同期比ベースでは、第1四半期に9.5%、第2四半期に3.1%減少した後、第3四半期のGDPは0.8%増加した。製薬業における生産急増とエレクトロニクスの在庫の積み増しの再開が現状の回復の牽引車となっており、更なるアジア経済の回復への期待も後押しするものである。2009 暦年においてGDPは2-3%縮小するだろうが、2010年においては3-4%増加することが見込まれよう。一方で中央銀行は注意深い姿勢を変えておらず、シンガポールドルの為替バンド(貿易量での加重平均(比率は非公開)の通貨バスケット)の幅を維持している。



クウェート

10月11日にクウェートは、2010年1月に予定されているGCCの通貨同盟および統一通貨採択の時期を遅らせることを推進するという公式見解を発表した。翌12日にこれは撤回され、財務省は同国が議会の承認を条件に、このプロジェクトに参加することに意欲的であるとした。アラブ首長国連邦とオマーンは既に撤退している。通貨同盟は来年採択されるだろうが、完全な形で流通する統一通貨となるのはもっと先のことだろう。一方で既存の通貨体制も残ると思われるが、直近の動きによってビジネスと貿易に不確実性が加わるかもしれない。



中国

9月の貿易統計は、輸出の落ち込みのペースが、9ヶ月来で最も緩くなっていることを示し、前年同期比-15.3%となった(8月には前年同期比で-23.4%)。輸入は前年同期比でわずかに3.5%の減少となった。営業日ベースで調整すると、実際の落ち込みはもう少し大きい、それでも改善の傾向は確認できる。前月比季節変動調整後の輸出は強い成長を見せている。第4四半期の統計の見通しは更なる改善も示唆しているが、これはそもそも2008年第4四半期において貿易が落ち始めたことにもよる。直近のPMI(購買部担当景気指数)も国内需要の成長を示しており、9月のM2の伸び(前年同期比29.3%増)と5,170億人民元の貸付の拡大によっても促進されている。



スロベニア

実質GDPは第2四半期においては前年同期比9.3%縮小した(第1四半期には同8.3%の縮小)。民間消費は2.6%縮小し、投資は大きく27.3%も縮小した。輸出も急激に落ち込んだが(21.3%)、輸入の更なる落ち込み(24.8%)により、経済成長に対しては、純輸出の貢献でプラスの影響を与えた。しかし前四半期比、季節変動及び営業日調整ペースではGDPは第2四半期には0.7%増加し(第1四半期には6.4%縮小)、下降傾向に歯止めがかかったことを示唆している。これは工業生産統計によっても支持されており、7、8月において前月比での生産量の増加(各々0.2%、4.9%の増加)が見られ、前年同期比ペースでは縮小のペースが緩やかになってきている(8月に18.4%)。

## ALSO IMPORTANT...



ザンビア

先週金曜日の2010年国家予算の発表は、社会改善プログラムとインフラ開発への引き続きのコミットメントを示すものである。ドナー支援の弱まりを受けて歳入の殆どは国内からのものとなる(予測収入の72%)。予算は国内的には概ね支持されたが、IMFは鉱業(主として銅鉱山)からの鉱山使用料と税収を増やす必要があるとした。しかし、鉱業に対するとりあえずの課税は今次予算では見送られ、これは投資家の信頼を高めるものになるだろう。今年のGDP成長率は3-4%、2010年は5%程度になるだろう。



ボツワナ

与党ボツワナ民主党は現在分裂しているが、とりわけイアン・カーマ氏の独裁的なスタイルに対する見方について(元々同氏は陸軍の指導者だった)野党も同様に分裂している。また、現状の景気低迷にもかかわらず(ダイヤモンドに対する世界的な需要の弱さを反映している)、ボツワナは相対的には豊かで、汚職も少なく、安定的な民主国家であるため、この金曜日の選挙が想定外の結果をもたらすことはないだろう。カーマ氏(建国の父の息子であり、最大の部族であるバグワトの首長である)およびボツワナ民主党が圧勝し、秩序だった取り組みが続くだろう。

## COUNTRY REVIEW SUMMARIES



トリニダードトバゴ

1月に中央銀行はCLフィナンシャルグループの保険および投資・銀行部門への介入を余儀なくされた。当初の問題はさておき、介入は更なる波及をとめることが出来、高い原油価格(原油は輸出の90%)の際に政府が蓄積してきた資金が経済低迷の衝撃を和らげることが出来たため、経済は依然として全般的に活発といえる。対外流動性指標は健全で債務指標も相対的に低い。首相の人気は比較的低いが、次期選挙は2012年まで予定されており、野党も分裂している。2009年のGDPは2%程度縮小するだろうが、2010年には2%程度増加することになるだろう。



ブルガリア

かつて過熱していた経済は現在不景気の状態にある。経常収支赤字は縮小しているとはいえ、GDPの10%超となる予測となっている。対外債務(GDPの107%)は懸念材料であり、債務返済指標は2009-10年で37%となっている。引き続き世界的な危機と流動性の縮小もあり、償還期限を迎える債務の借り換えはとりわけ難しいだろう。倒産件数は増えるだろう。外貨準備高の厚さと通貨ボード制への堅い政治的なコミットメントによって、為替制度が自壊するリスクは殆どないと思われるが、他国における通貨ペッグ制の崩壊が伝染するリスクはあるだろう。

## IN BRIEF

リトアニア USD15億ドルの5年ものの対外債券を成功裏に発行することが出来た。  
ルーマニア 10月1日に連立パートナーの離脱を受けて、ポック首相の政府は信認投票に敗れた。  
セルビア 政策金利は100bps引下げられ、11%となった。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.